

あなたに ちゃんと知ってほしいから。

トコトン
やさしい



上関中間貯蔵 施設のおはなし

山口県上関町に、中間貯蔵施設が建設されるかも知れないという
ニュースが、新聞やテレビで、よく取り上げられています。

とはいえ「**何だかよくわからないなあ**」という人は少なくないと思います。
そこで、どんな施設なのか、**トコトンやさしく**解説します。



Q1 そもそも 中間貯蔵施設って、なんだろう？



原子力発電所



使用済み核燃料



中間貯蔵施設

中間貯蔵施設は、原子力発電所で使い終わった
燃料=**使用済み核燃料**を貯蔵するための施設です。
使用済み核燃料は強い放射線を出し、毒性が
自然界並みになるまで、およそ**10万年**かかると
いわれています。そのため、放射線が外に出ない
ように、**キャスク**と呼ばれる金属製の容器に
入れて貯蔵します。

予定地から
わたしたちの生活圏は
こんなに近い！



Q2 「貴重な資源」？ それとも「核のゴミ」？

国や電力会社は、使用済み核燃料のことを「貴重な資源」だといいます。

使用済み核燃料を**再処理**して、原発の燃料として**再利用**しようと計画しているからです。

この再処理して再利用する仕組みを

核燃料サイクルといいます。

ところが、青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場は、

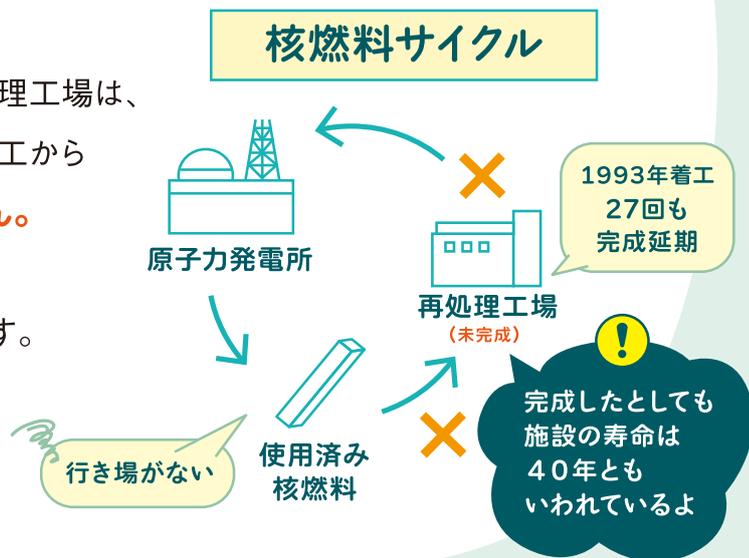
これまで27回も完成が延期されていて、着工から30年以上経ったいまも**完成していません**。

再処理できていない現状を踏まえると、

使用済み核燃料は単なる「**核のゴミ**」です。

原子力発電を続ける限り、「核のゴミ」も

増え続けるのです。



Q3 どうしてゴミが上関にくるの？ どこから運ばれてくるの？

上関町に中間貯蔵施設ができた場合、中国電力の島根原発からだけでなく、関西電力の「核のゴミ」も持ち込まれると考えられています。

福井県内に3つの原発を持つ関西電力は、島根原発の8倍以上(3,850トン※)の「核のゴミ」を抱えています。その県外搬出を福井県と約束していましたが、

受け入れ先がありませんでした。 ※2024年12月末時点

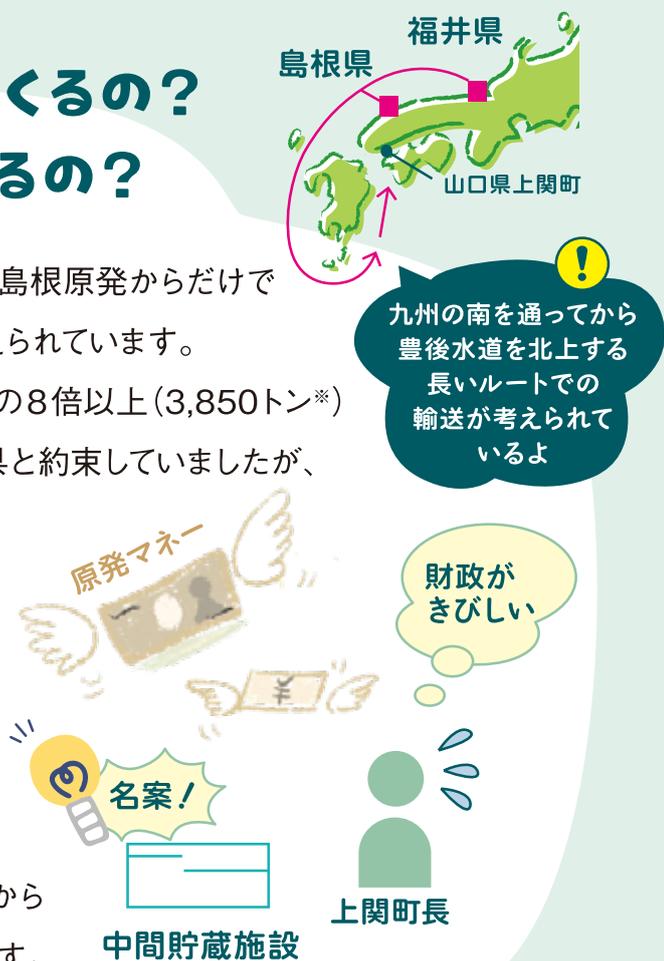
一方、上関町では、原発の建設工事が福島第一原発事故の影響で中断し、国からの交付金が激減して、

財政的に行き詰っていました。

上関町に中間貯蔵施設ができれば、関西電力は

福井県との「核のゴミは県外に出す」という約束を

果たすことができますし、上関町は国や電力会社から交付金などの財政的支援を受けることができます。



Q4

それって安全なのかなあ？

関西電力の当初計画では、中間貯蔵施設に2,000トンの使用済み核燃料を貯蔵すると想定していました。これは広島に

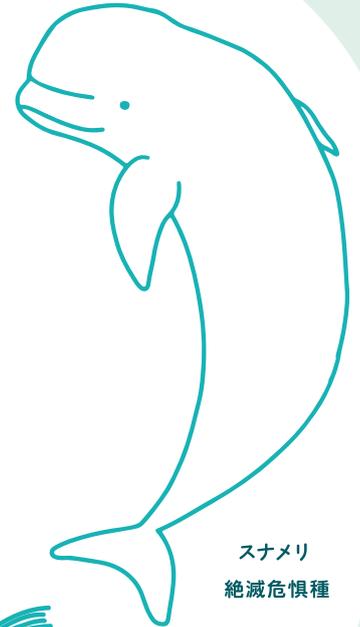
落とされた**原爆の「死の灰」6万発分**※に相当します。※セシウム137の量を基に計算

キャスクの劣化、地震などの自然災害、輸送中の事故、テロなどの対象になるなど、想定外の事態に

対応しきれないおそれがあります。

ほとんど陸地に囲まれた瀬戸内海で大事故が起きれば、沿岸住民の生活は脅かされ海の再生も大変難しくなります。

さらには、再処理の見通しが立っていない状況の中、**中間貯蔵**ではなく**半永久的に置かれてしまう可能性**もあるのです。



他にこんな心配もあるよ

キャスクに異常があっても、その場でフタを開けて修理できない

新たに見つかった国東半島からのびる活断層は大丈夫？

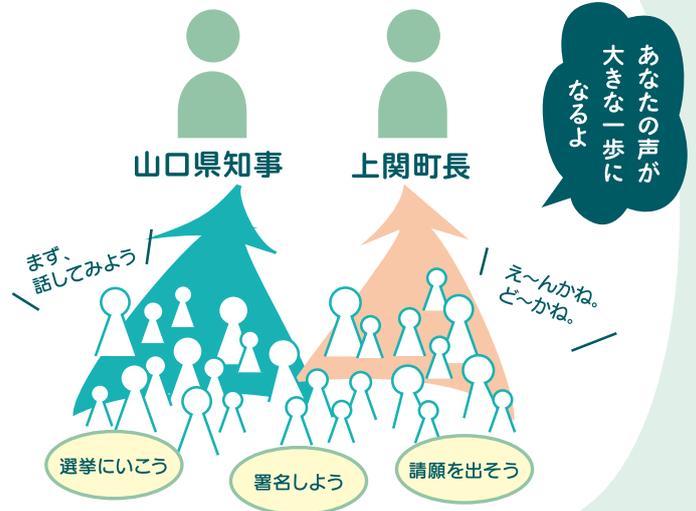
開発で希少な生き物の住処が奪われる

Q5

上関町が認めただけで進められるってホント？

国の手続きでは立地自治体(=上関町)が認めただけで建設が進められ、**同じ危険性を負う周辺自治体の意見が反映される仕組みにはなっていません。**

ただし、**山口県知事の同意が必要になります。**県知事は「周辺自治体の理解が必要」と明言しているので、上関町周辺自治体の民意が問われているのです。





私たちのまちづくりに影響は？

美しい自然

移住定住

子育て

農林水産業

安全な暮らし

山口県東部は、瀬戸内海を臨む自然豊かで穏やかな地域です。現在、地域の人口減少が進む中、どの市町も移住、定住、子育て、農林水産業の支援など、**魅力あるまちづくり**に取り組んでいます。

そうした中、**中間貯蔵施設ができることによって**
住み続けよう、移り住もう…となるのでしょうか？

これまで先人たちが築いてきた瀬戸内海の豊かな自然と暮らしを未来に残すことこそが、今を生きる私たちの使命ではないでしょうか？



知っちゃった？

日本は再エネ資源の宝庫

日本は小さい国であるにも関わらず、四方を海に囲まれ、国土の70%の森林と多くの河川を有する世界でも有数の再生可能エネルギー（再エネ）資源の宝庫です。これまでの太陽光発電などに加えて、長い海岸線を活かした **洋上風力発電**。数多くの河川を活用した **水力発電**。森林の整備と共に **バイオマス発電**。さらには火山国日本の特性を活かした **地熱発電** など **それらを存分に活用することで私たちが消費する電力の数倍もの電力が生み出されると試算されています。**



福島原発事故をきっかけに、世界各国では再生可能エネルギーへの方向転換が進んでいます。**原発に頼らない社会にすることは可能**なのです。

省エネって
すばらしい！

原発がないと電力が足りないの？

企業努力や省エネ製品の普及などにより、**電力消費量は年々少なくな**
ってきています。

2011年の福島原発の事故を受けて **2014年度は原子力0%を実現**
しました。しかし、その後の原発の再稼働で、2024年度は全てのエネルギーの中で原子力が9.4%を占めています。原発は処理も廃棄も難しい副産物を排出し続けます。「賢い選択」を考えるときです。

参照：経済産業省 令和6年度(2024年度)エネルギー需給実績(速報)(令和7年12月12日公表)

電源構成(発電量)の推移

